

●神々の苦しみ——神社縁起の世界

- 神が神にまつられるということ——神觀念の一つのバターン—— 2 熊野の比丘尼たち——縁起のない手—— 4 熊野の本地——苦しむ神の物語—— 8 神の子を宿す女——木義密通の謎—— 28 うわなりうち——罪の結婚—— 30 熊野の山・南山——山界浄土—— 33 刑場への道行き——血を流す女神—— 35 死出の髪結い——女性の髪への信仰—— 38 切り落せぬ首——うけひ—— 39 どうはつのつるぎ——日本第一の玉剣—— 40 首を切られた五衰殿——苦しむ神・悩む神の姿—— 42 殺戮されて蘇る——神になる条件—— 43 神ははじめから神——人間を神にまつることはない—— 47 「神祇令」にみる日本の神——天神・地祇—— 48 動物に育てられる王子——動物哺育譚—— 50 世界的な宗教思想の潮流の中から——熊野縁起絵巻の世界—— 53 裸の王子——葉人・葉の人—— 55 熊野の熊——朝鮮語の神—— 56 復活の聖器——飼葉桶—— 58 鵠と獄——霊界の橋渡し—— 61 飛車——異郷との連絡船—— 66 三国霊行の物語——外から来られる神々—— 67 フランドル地方の熊祭り——生と死の模倣呪術—— 68

●さすらいの女神——日本人の心の底にあるもの

- 死の国から蘇る——死から生への復活—— 71 足柄山の金時と熊の子ウルソン——父なし子の成育—— 74 熊野信仰の本義——生即死・死即生の美修—— 76
- 「祓え」をめぐる——神道の根本思想—— 82 罪の衣——幣帛・御幣など—— 85 大祓の神事——東京大祓形代流し連合会の場合—— 88 形代・人形の意味するもの——祓えの歴史—— 92 人形・絵馬の起源——「祓え」の思想—— 98 地獄の入り口の神——「祓え」の神たち—— 102 堕獄する女神——速佐須良比咩という神—— 110 さすらいの男神——須佐之男命の追放—— 115 滅罪のさすらい——同行二人—— 119 さすらい人たちの罪——姦淫の罪—— 121 さすらいの自覚——仏教の影響—— 123

●日本の聖母——母子神信仰

- 聖母ということば 128 聖母をまつる神社 132 聖母大菩薩——神功皇后の場合—— 135 聖母神像——彫像—— 138 聖母神像——絵像—— 142 母子神——神功皇后と応神天皇—— 148 応神天皇の誕生——神の子としての父なし子—— 153 処女が子を産む話——賀茂の玉依姫—— 157 処女受胎——古代—— 161 処女受胎——中世・近世—— 165

聖母の働き―神を養う女― 173 ヒルメノムチとヒルマモチ 176 おなり神の
信仰 179 日本の家の原型―神聖家族― 183

●稲の神々―日本人の労働観

労働思想のルーツ 190 「いなり」という語 192 稲荷の神の絵像 198 初
午の話 211 稲荷契約のこと 215 稲荷信仰の普及 218 イナリとキツ
ネ 224 稲魂と稲倉と稲荷の神 230 生きている稲荷神 234 生業即実
相 242 日本人の労働観 253

●成仏を願わぬ神―八幡信仰の本質

「やはた」の名義 その(一)―矢幡八幡宮― 260 「やはた」の名義その(二)―矢羽田大神
宮寺― 265 宇佐神宮の原像―農業信仰― 272 宇佐神宮の社家―大神氏・宇佐
氏・辛島氏― 275 八幡大神と地主神の比売神―「まればと」をもてなす女たち― 277
比売神の位置―巫女信仰― 280 大帯姫廟神社―御子を養育する女性― 284
日本と朝鮮との関係―新羅遠征の物語― 290 八幡信仰の隆盛―朝鮮―単人関係を

收拾した八幡大神― 292 放生会の思想―生賢について― 296 八幡大菩薩 その
(一)―大悲闍提の大菩薩― 299 八幡大菩薩 その(二)―永遠に救われない神― 309

●日本の神と仏―地藏信仰をめぐる

「神仏」という観念―神と仏の並在― 316 地藏信仰の普及―民衆に親しまれた地藏―
317 死後の世界―地藏の役割― 320 仏教の地獄観―さまざまな地獄とその苦し
み― 325 地藏信仰の流れ―日本でさかえた地藏― 329 瀬織津姫と奪衣婆
―袂・袂の女たち― 334 三瀬川―阿波岐原の袂・袂― 337 ミソギの介
添をする女たち―罪の衣を脱がせる― 338 地藏と閻魔王―直毘神と禍津日神―
地藏の代受苦―首を切られる地藏たち― 345 「代」の論理―神職とは何か― 349
地藏と道祖神―侵入を遮断すること― 354 変わらないもの―日本の神道― 357

●あとがき